

自治体名	愛知県
------	-----

女性の健康支援対策の概要

これまで健康づくりについては、がん、循環器疾患、糖尿病など、疾患ごとに行ってきたが、女性と男性で罹りやすさや病状の進行速度が異なるといった「性別による差異」を考慮する重要性が明らかになってきたことから、“女性”という切り口で健康づくりをすすめていくことが必要である。

女性の健康課題は、女性ホルモンに大きく影響を受けることから、世代ごとの健康課題と女性ホルモンとの関係を多くの女性に理解されることに主眼を置き、一人ひとりの女性が主体的に健康づくりを実践できるような情報提供を行っていく。

また、女性特有のがんについては、早期発見・早期治療により治癒する確率が高く、早期発見に有効であるがん検診を受診することが重要である。一人でも多くの女性が、がん検診を受けるよう、そのきっかけとして事業を行っていく。

自治体の特徴

愛知県は、日本のほぼ中央の太平洋側に位置し、人口は740万を超え全国第4位、製造業出荷額は第1位で自動車産業に代表されるよう製造業が盛んである。また、農業算出額も第6位であり、工業だけでなく農林水産業も盛んである、中部・東海地方の中核の県である。

人口構成・(H22.1.1 現在)

	総数	男	女
人	7,414,977	3,725,798	3,689,179
割合(%)	100.0	50.2	49.8

15歳未満	1,076,641	551,714	524,927
15～64歳	4,829,879	2,492,932	2,336,947
65歳以上	1,472,906	658,191	814,715
75歳以上	633,937	249,421	384,516
85歳以上	158,417	44,268	114,149

女性に関する健康課題

平成19年の「愛知県循環器疾患登録事業」の結果によると、脳血管疾患の発症は男性は70代に、女性は80代にピークをむかえ、心疾患の発症は男性は40代、女性は50代から増え、女性の発症が遅い傾向にある。また、脳内出血、脳血栓症、脳塞栓症、急性心筋梗塞の発症は男性が多いが、くも膜下出血は女性に多い結果となっている。

平成21年度の生活関連基礎調査によると、「やせ」の割合は、全年代で女性が高く、特に20代が最も高い。生活習慣の改善意識は「改めている・改めたい」人は、若干女性が多い。また、健診を「受けた」人は全年代で女性が少なく20～50歳代で差が大きく、職業別には事務職が最も多く、家事専業が学生に次いで2番目に少ない。

本県の地域がん登録の結果(2005年)から、罹患について、男性は肺、胃、大腸の順に多く、女性は乳房、大腸、胃、肺、子宮の順に多い。乳がん、子宮がんの検診の受診率は、乳がん13.8%、子宮がん22.4%(平成19年度老人保健事業報告)であり、がん対策推進計画の目標である50%を達成するには課題が多い。

事業費(千円)

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	2,513千円
(2) 中高年期における健康支援事業	2,513千円
(3) 女性のがん支援事業	2,981千円
計	8,007千円

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	女性の健康づくり応援フェア（講演会及び健康広場）
分野	■健康教育 ■健康手帳の交付 □健康相談
事業費（千円）	2,513千円

事業目的

従来の疾患ごとの対策に加え、“女性”という切り口で健康づくりをすすめる必要性が増していることから、講演会と啓発イベントを開催することにより、女性の各世代に応じた健康上の悩み、健康づくりに関する知識、情報を提供し、その情報を活用しながら、一人ひとりの女性が主体的に健康づくりを行っていただけるようにする。

また、イベントなど一時的なものにとどまらず、サイトを作成し、今後、継続して情報提供していく。

事業対象

愛知県内の若年層から中高年の女性を対象とするが、講演会については、若年層と中高年に分けて開催する。

事業実施体制・展開

女性の健康課題について、多くの人に理解されるよう、啓発イベントとサイトの開設を行う。

①啓発イベント（女性の健康づくり応援フェア）

若年の女性を対象とした講演会と、健康課題のパネル展示を中心としたイベントを通して、広く女性の健康についての理解を深める。

- ・講演会、イベントについては「女性の健康づくり応援フェア」として、一体的に開催することにより女性の健康づくりに対する機運を盛り上げ、一層の普及を図る。
- ・イベント等の運営については、より多くの人に対して働きかけるために、ノウハウを持った専門の業者に委託をする。
- ・業者の選定については、今回の事業の主旨、内容の仕様を定め、企画提案を募り、女性の健康支援対策事業・企画評価委員会において選定を行う。

②サイトの開設（女性の健康づくり応援サイト）

女性の健康課題に関する情報は、イベントを通じた一時的なものにとどまらず、継続的に提供していくことが重要であるため、サイトを開設し情報提供を行っていく。

- ・サイトについては、提供する情報を追加等していただけるような仕様とし、簡易なアンケート機能を持たせる。
- ・デザインは専門業者に委託し、女性向けのサイトを作成し、委員会において了承を得る。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 女性の健康支援対策事業企画・評価委員会の開催 3回
- ② 「女性の健康づくり応援フェア」企画提案数 10事業者
- ③ 女性の健康づくり応援フェア来場者数 延べ約3,500名
- ④ 講演会（若年女性対象）参加者数 186名（定員300名）
- ⑤ 講演会参加者へのアンケート 回答数163件
 （健康づくりの参考になった 99.4%）（ホルモンの影響について理解できた 95.7%）（性感染症について理解できた 96.3%）（がんについて理解できた 97.5%）（今後健康的な生活習慣に改めたいと思う 93.2%）（健康的な生活を送っていないと思う人のうち）（今後健診等受けたいと思う 88.6%）（過去1年間に受けていない人のうち）
- ⑥ 健康広場参加者へのアンケート 回答数566件 各パネル展示について“参考になった”割合
 （がん 92.0%）（ホルモン曲線 90.1%）（女性の身体特性と病気 92.0%）（更年期障害 87.3%）

事業の工夫点

健康に対して意識の低い層に対して、いかに会場に足を運んでもらうかが重要であり、フェアの開催の告知については、若年層にターゲットを絞った広報を行い、会場については、アクセスを考え、県内有数のターミナル駅である金山総合駅を中心に設定した。また、講演会については、多くの人が足を運ぶきっかけとなるよう、専門医による講演に加えて、タレントとのトークを組み合わせを行った。

事業の効果についての評価・考察

①参加者について

講演会は若年の女性を対象にしており、周知については、OL向けのフリーペーパーへの広告掲載や、女子大学最寄り駅及び校内でのチラシ配布等を行った結果、目的の年齢層の参加が得られ、効果的な周知方法であったといえる。

②講演会

婦人科の医師から、生理や性感染症、女性ホルモンの影響など、若い女性を対象とした内容についての講演に加え、若年の女性に影響力のあるタレントをゲストに迎え、医師と健康についてのトークを展開し、アンケートの結果は、参考になった等プラスの意見が多数見られた。健康に興味の薄い層に対して健康課題等について理解を得るには、タレント等の出演により講演会への参加を促すことにより可能であると考えられる。

③健康広場

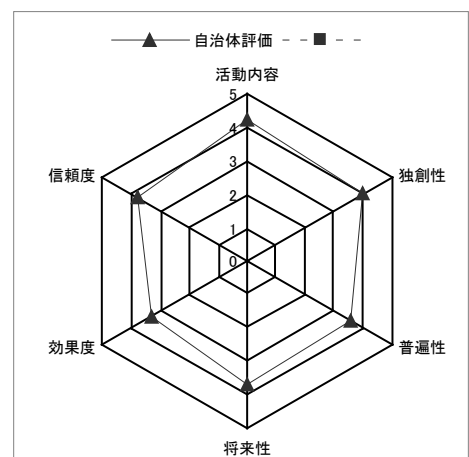
ホルモン曲線をシンボルに、がん、更年期障害、性感染症、骨粗鬆症等、女性の健康課題に関するパネル展示や、骨密度測定、マンモグラフィ検診車での体験コーナーを設けた。マンモ体験は定員を大幅に超える申込みがあったり、骨密度測定などでは長蛇の列ができるなど好評であった。知識を広めるため多くの人を引きつけるには、体験型のイベントを上手く組み入れることがポイントであるといえる。

今後の課題

イベントには多くの人が足を運び、アンケートの結果を見ても、ほぼプラス評価の意見であり、女性の健康課題に関する情報提供をし、一定の理解を得ることができた。若年層は健康に対する意識が比較的低いと考えられることから、得られた情報を自分の健康づくりに今後生かして行けるかが課題であり、引き続きサイトをとおして情報提供していくことにより健康意識の高まりを持続させること、イベントの参加しなかった人たちへの啓発をしていくことが重要である。

ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/0000031156.html
照会先	愛知県 健康福祉部健康担当局 健康対策課 生活習慣病対策グループ 052-954-6271

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.2	全体イメージ等、女性対象らしい配慮が感じられる。対象項目が多く散漫であるが、項目としては的を得ている。
②独創性	4.0	講演会の出演者の選定が、健康意識の低い層への動員につながった。
③普遍性	3.6	健康イベントはある程度開催されているものである。対象を絞った開催告知の方法は評価できる。
④将来性	3.7	イベントとしては今回限りなので、作成したパネルの活用とサイトの充実が望まれる。
⑤効果度	3.3	アンケート結果からは有効である可能性は確認されたが、現時点では不明な部分もある。
⑥信頼度	3.8	アンケートは回答件数等から、ある程度信頼ができる。サイトの内容の詳細については、専門医への確認が必要。



(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	女性の健康づくり応援フェア（講演会及び健康広場）
分野	■知識の提供 □健康相談 ■情報提供
事業費（千円）	2,513千円

事業目的

従来の疾患ごとの対策に加え、“女性”という切り口で健康づくりをすすめる必要性が増していることから、講演会と啓発イベントを開催することにより、女性の各世代に応じた健康上の悩み、健康づくりに関する知識、情報を提供し、その情報を活用しながら、一人ひとりの女性が主体的に健康づくりを行っていけるようにする。

また、イベントなど一時的なものにとどまらず、サイトを作成し、今後、継続して情報提供していく。

事業対象

愛知県内の若年層から中高年の女性を対象とするが、講演会については、若年層と中高年に分けて開催する。

事業実施体制・展開

女性の健康課題について、多くの人に理解されるよう、啓発イベントとサイトの開設を行う。

①啓発イベント（女性の健康づくり応援フェア）

中高年の女性を対象とした講演会と、健康課題のパネル展示を中心としたイベントを通して、広く女性の健康についての理解を深める。

- ・講演会、イベントについては「女性の健康づくり応援フェア」として、一体的に開催することにより女性の健康づくりに対する機運を盛り上げ、一層の普及を図る。
- ・イベント等の運営については、より多くの人に対して働きかけるために、ノウハウを持った専門の業者に委託をする。
- ・業者の選定については、今回の事業の主旨、内容の仕様を定め、企画提案を募り、女性の健康支援対策事業・企画評価委員会において選定を行う。

②サイトの開設（女性の健康づくり応援サイト）

女性の健康課題に関する情報は、イベントを通じた一時的なものにとどまらず、継続的に提供していくことが重要であるため、サイトを開設し情報提供を行っていく。

- ・サイトについては、提供する情報を追加等していけるような仕様とし、簡易なアンケート機能を持たせる。
- ・デザインは専門業者に委託し、女性向けのサイトを作成し、委員会において了承を得る。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 女性の健康支援対策事業企画・評価委員会の開催 3回
- ② 「女性の健康づくり応援フェア」企画提案数 10事業者
- ③ 女性の健康づくり応援フェア来場者数 延べ約3,500名
- ④ 講演会（中高年女性対象）参加者数 217名（定員300名）
- ⑤ 講演会参加者へのアンケート 回答数210件（健康づくりの参考になった 99.0%）（がんについて理解できた 97.6%）（更年期障害について理解できた 86.8%）（骨粗鬆症について理解できた 90.3%）（ホルモンの影響について理解できた 87.4%）（今後健康的な生活習慣に改めたいと思う 84.2%＜健康的な生活を送っていないと思う人のうち>）（今後健診等受けたいと思う 82.2%＜過去1年間に受けていない人のうち>）
- ⑥ 健康広場参加者へのアンケート 回答数566件 各パネル展示について“参考になった”割合（がん 92.0%）（ホルモン曲線 90.1%）（女性の身体特性と病気 92.0%）（更年期障害 87.3%）

事業の工夫点

健康に対して意識の低い層に対して、いかに会場に足を運んでもらうかが重要であり、フェアの開催の告知については、中高年層にターゲットを絞った広報を行い、会場については、アクセスを考え、県内有数のターミナル駅である金山総合駅を中心に設定した。また、講演会については、多くの人足を運びきっかけとなるよう、専門医による講演に加えて、タレントとのトークを組み合わせを行った。

事業の効果についての評価・考察

①参加者について

講演会は中高年の女性を対象にしており、周知については、新聞や新聞折り込みのフリーペーパーへの掲載、中高年に人気のラジオ番組での紹介等を行い、対象の層にアピールを行った結果、概ね目的の年齢層の参加が得られた。

②講演会

女性の医師から、女性ホルモンの影響や骨粗鬆症、乳がんなど、中高年の女性を対象とした内容についての講演に加え、中高年の女性に人気のラジオパーソナリティーをゲストに迎え、医師と健康についてのトークを展開し、アンケート結果は、参考になった等プラスの意見が多数見られた。健康に興味の薄い層に対して健康課題等について理解を得るには、タレント等の出演により講演会への参加を促すことにより可能であると考えられる。

③健康広場

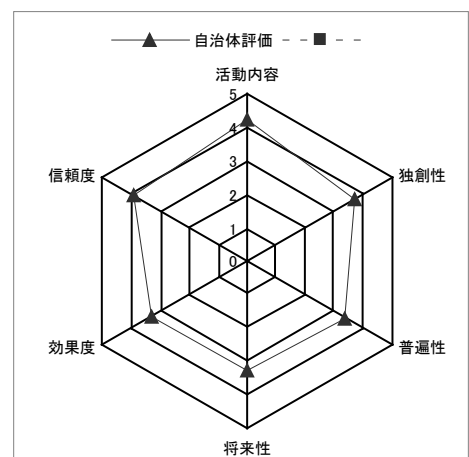
ホルモン曲線をシンボルに、がん、更年期障害、性感感染症、骨粗鬆症等、女性の健康課題に関するパネル展示や、骨密度測定、マンモグラフィ検診車での体験コーナーを設けた。マンモ体験は定員を大幅に超える申込みがあったり、骨密度測定などでは長蛇の列ができるなど好評であった。知識を広めるため多くの人を引きつけるには、体験型のイベントを上手く組み入れることがポイントであるといえる。

今後の課題

イベントには多くの人足を運び、アンケートの結果を見ても、ほぼプラス評価の意見であり、女性の健康課題に関する情報提供をし、一定の理解を得ることができた。中高年層は健康に対する意識が比較的高いと考えられるが、健康の維持、向上を図るには、得られた情報を自分の健康づくりに今後生かして行けるかが課題であり、引き続きサイトをとおして情報提供していくことにより、健康意識の高まりを持続させること、イベントの参加しなかった人たちへの啓発をしていくことが重要である。

ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/0000031156.html
照会先	愛知県 健康福祉部健康担当局 健康対策課 生活習慣病対策グループ 052-954-6271

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.2	年代、ターゲットにふさわしいテーマである。駅構内という会場により、多くの人にアピールできた。
②独創性	3.7	講演会の内容としては平凡。タレントのトークは集客にはつながったが、その内容の検討がもう少し必要。
③普遍性	3.4	テーマとしては、今後も継続して啓発をし、理解が広がって欲しい。
④将来性	3.3	イベントとしては今回限りなので、効果を高めるためには継続して開催されることが望まれる。
⑤効果度	3.3	アンケート結果からは有効である可能性は確認されたが、現時点では不明な部分もある。
⑥信頼度	3.9	アンケートは回答件数等から、ある程度信頼ができる。サイトの内容の詳細については、専門医への確認が必要。



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	がん健診受診啓発リーフレット作成		
分野	■啓発活動	□健康教育	□健康相談
事業費（千円）	2,981 千円		

事業目的

愛知県がん対策推進基本計画において、がん検診受診率50%を目標として掲げているが、がん検診の受診率は高いとは言えない状況にあり、特に、女性に特有の乳がん、子宮がんについては他の部位に比べ受診率が低いのが現状である。このため、がん検診の受診率の向上を図るため、啓発用リーフレットを作成する。

事業対象

がん検診の受診対象である20歳以上の女性

事業実施体制・展開

がん検診の受診につながるような、啓発リーフレットを作成する。

①女性向けのデザインと内容

- ・特に、乳がん、子宮がん検診の受診率向上を目指し、がんの現状のデータ、がん検診の有効性、がん検診の方法などの基本的な情報を、女性らしいデザインで、簡単に分かりやすく説明した内容とする。
- ・デザインについては、専門業者に委託し、女性の健康支援対策事業企画・評価委員会において了承を得る。

②がん体験談「がん検診へのメッセージ」を掲載

- ・リーフレットの効果をより一層高めるため、がん検診の内容、重要性を紹介するのに加え、がん検診の体験談などを掲載することにより、リーフレットを手にとった人が、自分の身に置き換えてがんについて考えることにより、がん検診の受診行動へとつながるような内容とする。
- ・厚生労働省が主唱する10月の「がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間」にあわせ、平成21年9月28日から10月31日まで、がん検診の啓発の一環として、「がん」（乳がん・子宮がん）にまつわる短編エッセイを募集。
- ・がんの体験談をとおして、がん検診の大切さを感じられるよう、応募作品の中からいくつかを選びリーフレットに掲載。
- ・女性の健康支援対策事業企画・評価委員会において、応募作品から6作品を選定しリーフレットに掲載。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 女性の健康支援対策事業企画・評価委員会の開催 3回
- ② 「がん」（乳がん・子宮がん）にまつわる短編エッセイ応募数 26作品
- ③ リーフレットのアンケート依頼先
看護専門学校1校、民間企業1社、ピンクリボン運動民間団体1団体、女性の健康づくり応援フェア参加者
男女共同参画関係会議1会議において依頼
- ④ アンケート結果（掲載内容について）
（役立つ情報である97.9%）（「がん検診へのメッセージ」が伝わった98.6%）（がん検診の大切さが理解できた99.5%）
- ⑤ アンケート結果（今後のがん検診受診について〈検診を受けたことがない人について〉）
（積極的に受診しようと思う31.6%）（受診に前向きになった59.6%）

事業の工夫点

リーフレットのデザインについて、柔らかい色遣いやイラストなどを多用し、女性に受け入れられることを考えた。また、“がんは他人事ではない”ことが意識されるよう、がんの体験談を掲載することにより、がん検診受診へきっかけとなることを目指した。

事業の効果についての評価・考察

①リーフレットの内容について

リーフレットの情報は、スムーズにがん検診の重要性が理解されるよう次のストーリー展開とした。また、グラフ等により視覚的に訴えるとともに、愛知県の地域がん登録のデータを活用し地域の現状を示すことにより、興味を引くような体裁とした。まずリーフレットに目を向けさせ、理解しやすい内容であることで、受け取った人が最後まで目を通し、理解することが可能であると考えられる。

※「がんの発生状況から、がんは身近な病気である」→「しかし、がんは早期発見・早期治療により治る病気」
→「早期発見にはがん検診が有効」

②がん検診へのメッセージについて

リーフレットの最大の特徴はがんの体験談を掲載したことであるが、体験談をとおして、がんは他人ごとではないことが認識され、今後のがん検診受診へのきっかけになることが推測される。

なお、がんの体験談を募集することによる、がん検診への啓発効果をねらったが、今回の応募作品が26作品にとどまっており、作品募集方法の工夫が必要であったと考えられる。

③アンケート結果からは、9割以上の方が検診に前向きになっており、リーフレットの内容とがんの体験談の掲載により、がん検診への受診行動につながると考えられる。

今後の課題

アンケート結果からは、高い評価を得ていると思われる。しかし、アンケート対象としては、看護学生や女性の健康づくり応援フェア参加者など、比較的、健康に対する意識の高い人に偏っている傾向にある。このため、がんに関する情報を、健康に対する意識の低い層へ、伝えていくことが今後重要である。

ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/0000031156.html
照会先	愛知県 健康福祉部健康担当局 健康対策課 生活習慣病対策グループ 052-954-6271

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.3	女性が手に取りやすいものである。わかりやすく、重要なテーマが盛り込まれている。
②独創性	3.9	広報手段としては平凡である。体験談を掲載したことは、効果が期待できる。
③普遍性	3.7	テーマとしては、今後も継続して啓発することが望まれる。
④将来性	3.7	リーフレットを誰に届けられるか、関心の低い人に届くことが重要。
⑤効果度	3.2	アンケート結果からは効果が見受けられるが、行動変容までは把握できないので、今後の継続した啓発が重要。
⑥信頼度	3.8	アンケートは年代の偏りが少ない点は良い。掲載内容について、各専門医への意見確認が望ましい。

